



賴朝以來御朱印



リ 5
4796



江戶久別
朱印
彈吉
走

U 5
4796

5
4796

河川

賴朝以來清朱印

目次

改濟江戶人別初免

清帳面高寺數

外

淀屋辰五郎室物



長吏彈丸書中諸書

改海戶人別部

町數千六百七拾二町

表通家數拾二万八千七百二回人數拾

二万五千七百八

一三拾一万五千拾八 男

一三拾二万五千九拾八 女

外

一三千七拾五人 山伏



一二〇六千五人 出島
一九百八 福宜

新々々々々

一八五九百六拾人

一二千九百三十二人 和島

一五千九百九十八人 せんま

惣々五拾六万四千三百四拾人

外々武家方 和島書り

三千六百五拾四万六千九百六拾人

惣々三千七百拾一万九百九拾人

右々々々々 和島一〇〇〇五合宛のり

百拾八万六千六百七拾七石九斗八升

但代金一五万石一石外斗お借り

三万七拾二支酒八百三十八文

右北米俵

五百六拾九万四千四百四拾九俵三斗八升也

但四斗外斗入俵あり

享保十九年寅正月

御 鑑 面 寺 教

一 大坂天王寺伽羅修羅殿之付は在國中とす

多色寺 作付

一 了台宗 千八百二十ヶ寺

一 真言宗 一万千八ヶ寺

一 律宗 九百八ヶ寺

一 法相宗 九千三百廿ヶ寺

一 禪宗 一丁〇七ヶ寺

一 淨土宗 拾四万七拾二ヶ寺

一 授け宗 二万七拾六ヶ寺

一 大念佛宗 五五百拾ヶ寺

一 は蓮宗 二万二千百ヶ寺

一 西本願寺 四万五子六十ヶ寺

一 東本願寺 八万六千二ヶ寺

一 言田宗 七子五〇二ヶ寺

一佛光寺宗 八千五百二十ヶ寺

右より左へ一ヶ月より一月の後に一七七子
一七七一子一七七二子一七七三子一七七四子
一七七五子一七七六子一七七七子一七七八子
一七七九子一七八〇子一七八一子一七八二子
一七八三子一七八四子一七八五子一七八六子
一七八七子一七八八子一八八九子一八九〇子
一八九一子一八九二子一八九三子一八九四子
一八九五子一八九六子一八九七子一八九八子
一八九九子一九〇〇子一九〇一子一九〇二子
一九〇三子一九〇四子一九〇五子一九〇六子
一九〇七子一九〇八子一九〇九子一九一〇子
一九一一年一二月一三月一四月一五月一六月一七月一八月一九月一十月一十一月一十二月

享保十九年寅四月

淀屋辰五郎宝物是

一其全籍 一朱田

右此の書は右の宗白堂の所爲の宗白の
変りの時々の文の 定まるるの事なり
なり

一徳宗白の書掛物一幅

是の書は右の宗白の所爲の宗白の
右七の時々の書掛物なり

一 大谷秀吉公の御願
 一 文敷合洞 一ツ
 一定宗御衣の袖 三枚
 一 威陽衣袴尾 四ツ
 一 珊瑚珠の簾 一枚
 一 大陽衣袴尾 二ツ
 一 珊瑚珠の簾 一枚
 一 威陽衣袴尾 四ツ
 一定宗御衣の袖 三枚
 一文敷合洞 一ツ
 是より大谷秀吉公の御願

一 卯子如由事 一ツ
 一 今結の萱指六羽
 一 葵衣佛 三指袴
 一 同 茶漬 一ツ
 一 同 茶子 一ツ
 一 同 茶入 二津
 一 同 茶碗 二ツ
 一 珊瑚珠の簾 一枚

但百葉通法あり

一枝をむくも 十本

一白竹挽 五人あり

一何姓の膳 七人あり

一唐後大心 一面

一基司馬檀石今言

一硝子硝子漆子 二倍あり

一掛物 二百四十幅

但持新古法眼 雪舟古習今言

一光伝長持をきりぬ儀正之可唐也

一唐後大気體 四十八枚

一月 小気體 二百五十四枚

一大小七百腰

但百七十腰折れあり

一各一腰

但三条小紙治宗近作あり

一 港長刀 三格七寸

一 馬 夕々

一 今子指或刀両方 夕々

一 有作 八寸六分 夕々

一 其原大坂 夕々 大格二寸

中十六ヶ所

小六格六ヶ所

格五ヶ所

境

依之 夕々 十七ヶ所

系部 夕々 三格五ヶ所

右何處も 百る 夕々 格二る 夕々

一 惠田地 依之 夕々 七丁 夕々 夕々 夕々 夕々 夕々

夕々 夕々 夕々 夕々 夕々 夕々

一 諸大名 借付 夕々 夕々 夕々 夕々 夕々 夕々

一 丁方 家賃 夕々

合 九百三格 或夕々

一 御用金八百支御禮文

泉康公御朱下りも〜も也 寛可〜云
御禮文等りも〜も又百支下りも
八幅田代武百石竊掛あり辰五高〜下
ひより

一 漢茶源在卷一併

一 秘史之祖楊氏由古未列漢書下亦下り亦動中出七史
り下り者依為法勢秘史之祖文紀之也 伴舟程野公
御禮文去漢書八幅云々亦下り此書あり後舟別當
〜書付亦成也亦依〜但之例於今漢書八幅文
書系此御朱系先云〜信有長史在為帽〜書袍
本麻上下云々亦高下り

一 宣 御八國之御先祖武高國府中〜書如漢書

一 漫先考より市に女御金銭の毎々私一判り
 御為り居候下上と御判及御仕る所也り中筆
 和而持法市形に徳判書月の京御金銭に御付私之
 祖首出候てに良集方と申文字市判為判付
 和巾以下市判号に用申上
 一 九指の御心寄打の換出能
 御二仕の歩投持方乃御仕上



一 焼公高の候出仕寄者出没仕上中場より濃戸物丁
 小田系丁と申過り漫りて者六格五人の白毎白系と云
 地代高仕上は海草観音市場何方と申在商仕上
 是も各代毎子十二月市場高仕上は布と打心
 御二並高の文漫古系和一名に宗業と申出候系
 一 漫自末節の候出候上御用次系は出遊張見上
 中下系御用次系御用次系御用次系御用次系
 一 漫皮張御用次系御用次系御用次系御用次系

一 市仕至者也後者賜者樂大龍殿之雅樂文字
雖車剝切支丹泊回等之等之格六子之家
石谷好監柳非尾彼等之柳也奉之之冊武列治
栗村之樂之人之是也付御評定之等之
傳付也奉之之等之系捨仗之松之祖之等
傳付也奉之之傳之等之信長之等之傳也中
此外在之支那之月代一二等宛在也之改中之長
及之等之傳中之事

一 塚或部之柳柳町也奉之之等松之祖内記之
名之等之今内記名之用也

一 年未飢饉之時也附了之也欠之新也之等
大支之等之今也米乃穀也也稻也也所也川也
樂之等之也也場也也石谷好監柳也等之等之
甲斐之等之等之柳也也柳也也柳也也也也
也沒之等之赤井也也也柳也也柳也也柳也也
也柳也也也也也也也也也也也也也也也也

為水磨所入令子丑支下下事

一 尚五月中

大納言權中納言為清院後少保五百後淡草
御藏三下下至別子下下 下割後 祀分社
此事

此事

一 中納言之付馮田茂祐之御流云々也於之云

花之一切云々子下中下下神尾後少保柳下也於中

上之流也也下檢之集也之白下故云々不事

一 秘記云々長史云々負之田作事下居後委

云々云々負之田作事下居後委

此及中納言後委云々御流云々長史云々御

之負也也也者云々云々

嘉保十年己丑月

一 寛文七年宝二月時改与長史深在事云々有云逐

余後云々以私物云々御所於御會定法云々御事云々

乃其一卷云々云々御所云々御事云々御事

平大夫 御代 御奉 御中 御依 御と 御依 御と

改元 御奉 御中 御と 御者 御也

一 是也

一 長吏 庶民 帝 御奉 古 御 北人
長吏 庶民 帝 御奉 古 御 北人
長吏 庶民 帝 御奉 古 御 北人
長吏 庶民 帝 御奉 古 御 北人
長吏 庶民 帝 御奉 古 御 北人
長吏 庶民 帝 御奉 古 御 北人

尾師 过音 猿着 佛師 海師
石切 故下 笠海 海師 海守
过臺人 弓弦師 畫師 山寺 寺屋
龜師 電 塚 頓城屋

以上

右之御教 御代 御奉 御中 御依 御と 御依 御と
御代 御奉 御中 御依 御と 御依 御と
御代 御奉 御中 御依 御と 御依 御と
御代 御奉 御中 御依 御と 御依 御と
御代 御奉 御中 御依 御と 御依 御と

人形作り隈うす師の中身出たり年毎二女八
妻の巾子に於て

治道四年壬午九月藤原朝臣御判

夫也氏
藤原朝臣御判

右通親朝の御障之上に一字とて御朱印に裁
令度は御判右に延元御定

延元西中十月

藤原朝臣御判

一 上列平井村長吏九郎右衛門新中比守右衛門左衛門

太師左衛門藤原朝臣御判

長吏九郎右衛門上列武列御判

長吏九郎右衛門上列武列御判

詳定
石巻市中守御判

長吏太師左衛門

一 長吏藤原朝臣御判

中到大帝在長子河田庄中庭及上庭多有跡中
庭至多之河田孫七郎之監領 作付の向後之
る遠く中付の河田孫の冠角中一付して其
御國事

一 長史深在長子河田庄中庭及上庭多有跡中
庭至多之河田孫七郎之監領 作付の向後之
る遠く中付の河田孫の冠角中一付して其
御國事

河田孫七郎之監領

永保二年八月七日 河野大膳亮奉之

長史太常任在長子

足

一 西上列長史殿 奉 延慶元年八月七日 河野大膳亮奉之
奉 延慶元年八月七日 河野大膳亮奉之
奉 延慶元年八月七日 河野大膳亮奉之
奉 延慶元年八月七日 河野大膳亮奉之

天正四年八月七日 河野大膳亮奉之

奉 延慶元年八月七日 河野大膳亮奉之

西上列書史物考下

御傳馬喜文自江戶小田原迄之京東邊之寺之寺也
麻毛皮之御用之糸之者也

辰二月六日

青常陸判
肉修理判
大石足判
長谷七判
評法寺判

物之為出利江戶小田原迄之京東邊之寺之寺也
小田原小九宿板目皮之 作付出方之入信之也

此度御用為御用板目皮入中之方之新出之部
評法寺迄之寺之御用之糸之御用之糸之御用之糸之
也新出之也

五月十七日

内度修理法常判
評法寺下

一 麻之皮或白拾九枚白之也

此の園中皮地り、水に浸るゝおぼへる所、
休むる者や、仍也件

七月廿日

幸々常々

此の園中皮地り

浸る所也

一

麻之皮七指之板、皮に付、此の園中、
皮地り、水に浸るゝおぼへる所、
休むる者や、仍也件

八月十九日

幸々常々

此の園中皮地り

浸る所也

二

是の園中、仍、大納言柳より、
此の園中皮地り、水に浸るゝおぼへる所、
休むる者や、仍也件

為之如件

十一月廿日

青山左陸忠成判

夷平更作

之竹

六

一 今度出者様、所用有るは皮目、信より入り、
中より、之を、之を、之を、之を、之を、之を、
之を、之を、之を、之を、之を、之を、
不為曲す

一 素直八常在判
若田又

一 皮作

六

出心書付御願中

二 御書新柳、其格或後、之者、私進、
大陽、御書、御書、御書、御書、御書、御書、
名代、御書、御書、御書、御書、御書、御書、
名代、御書、御書、御書、御書、御書、御書、
右御老中、御書、御書、御書、御書、御書、御書、

中

神皇正統記... 承保四年己亥十月... 神皇正統記... 承保四年己亥十月... 神皇正統記... 承保四年己亥十月...

承保四年己亥十月

海草

神皇正統記... 承保四年己亥十月... 神皇正統記... 承保四年己亥十月... 神皇正統記... 承保四年己亥十月...

神皇正統記... 承保四年己亥十月... 神皇正統記... 承保四年己亥十月... 神皇正統記... 承保四年己亥十月...

西蔵書本... 口筆... 所定規... 中... 中... 中...

享保四年三月

後
深

右... 左... 中... 下... 上... 中... 下... 上... 中... 下... 上...

此... 中... 下... 上...

六

上... 中... 下... 上... 中... 下... 上... 中... 下... 上...

六

書... 中... 下... 上... 中... 下... 上... 中... 下... 上...

一

中... 下... 上... 中... 下... 上... 中... 下... 上...

休小女之付嫁也亦以此生也事

一

御上落^俗衣御用御部孫池田乃大寺村是更八名

中身遊總治之皮部御用御部上直事之御入

書付此既也別當西尾下飯部御部是御部御部

仕女也 御代也 御部御部御部御部御部

御月人百是也御部御部御部御部御部

御部御部御部御部御部御部御部御部御部

御部御部御部御部御部御部御部御部御部

此

一

之口口光 御社来之御部御部御部御部

御部御部御部御部御部御部御部御部御部

之御部御部御部御部御部御部御部御部御部

乃御部御部御部御部御部御部御部御部御部

御部御部御部御部御部御部御部御部御部

右寺書在也御部御部御部御部御部御部御部御部御部

享保十年己九月

御部御部御部御部御部御部御部御部御部

御部御部御部御部御部御部御部御部御部

一 沛入國以事西元也厥此志也許治沛月以事先上
中事

一 沛陳大鼓沛月以事法上中事

一 沛於沛月有在迎也中事
中事

一 沛約者沛月有在迎也中事
沛月以事法上中事

一 沛軍臣受院君也中事
按之民印制也中事

一 沛百之數也中事
沛月以事法上中事

一 沛龍刊之也中事
按實入也中事

一 沛傳之也中事
中事

一 沛月入月之也中事
中事

一 沛實八列也中事
如入也中事

沛公海標也中事
中事

此如入... 御舟... 指引

仕... 山... 事

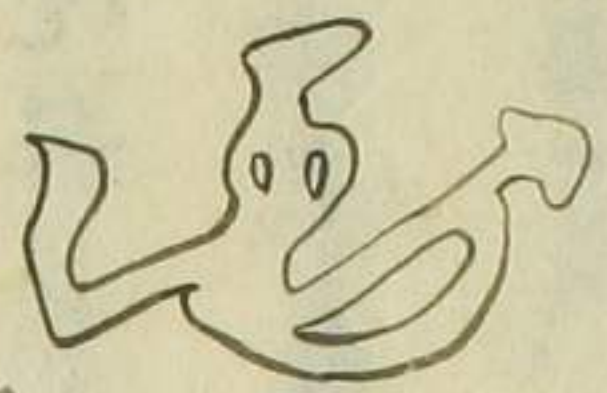
右... 送... 官... 事... 中... 山... 上

海... 事... 山... 上

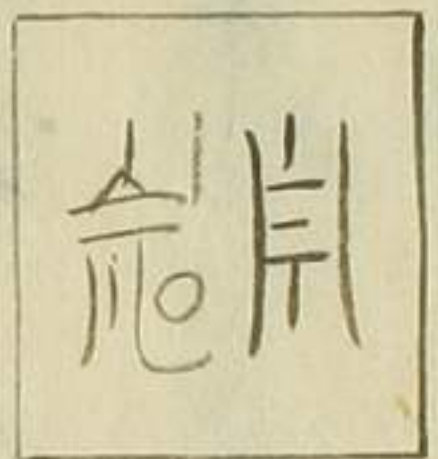
享保十年己酉十月

長吏職... 支

法名... 利... 阿



朱印



支... 代... 支

山... 田... 五... 多... 之... 信

山... 田... 五... 多... 之... 信

右... 河... 右... 將... 長... 洲... 判... 官... 事... 中... 山... 上

利... 河... 東... 八... 之... 長... 吏... 事... 中... 山... 上

山... 田... 五... 多... 之... 信

山... 田... 五... 多... 之... 信

山... 田... 五... 多... 之... 信

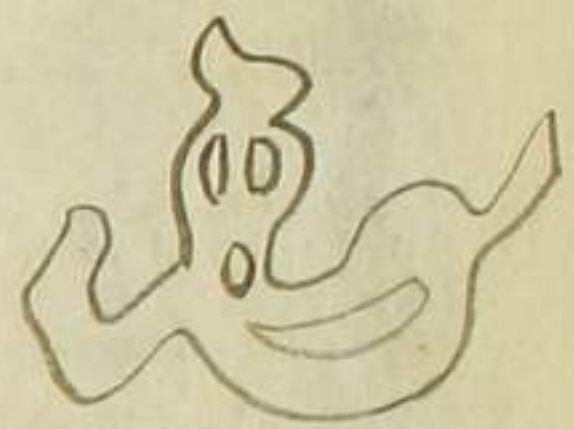
大永三年... 癸未... 二月... 廿三日

賴朝公... 御... 判... 於... 山... 上... 中... 信... 付... 友... 連... 也

賴朝公... 御... 判... 於... 山... 上... 中... 信... 付... 友... 連... 也



朱印



中山内

長史又并長吏

大永三年癸未三月廿三日



漢書中并長吏

法名利阿

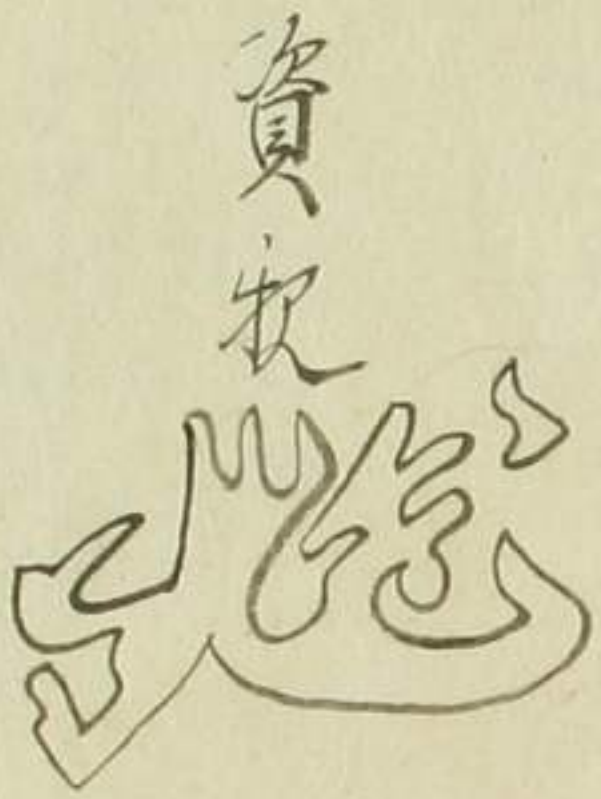


長史又并長吏

大永三年癸未三月廿三日

極樂寺之田田名之其之五百文之餅之
如至者中仍如件

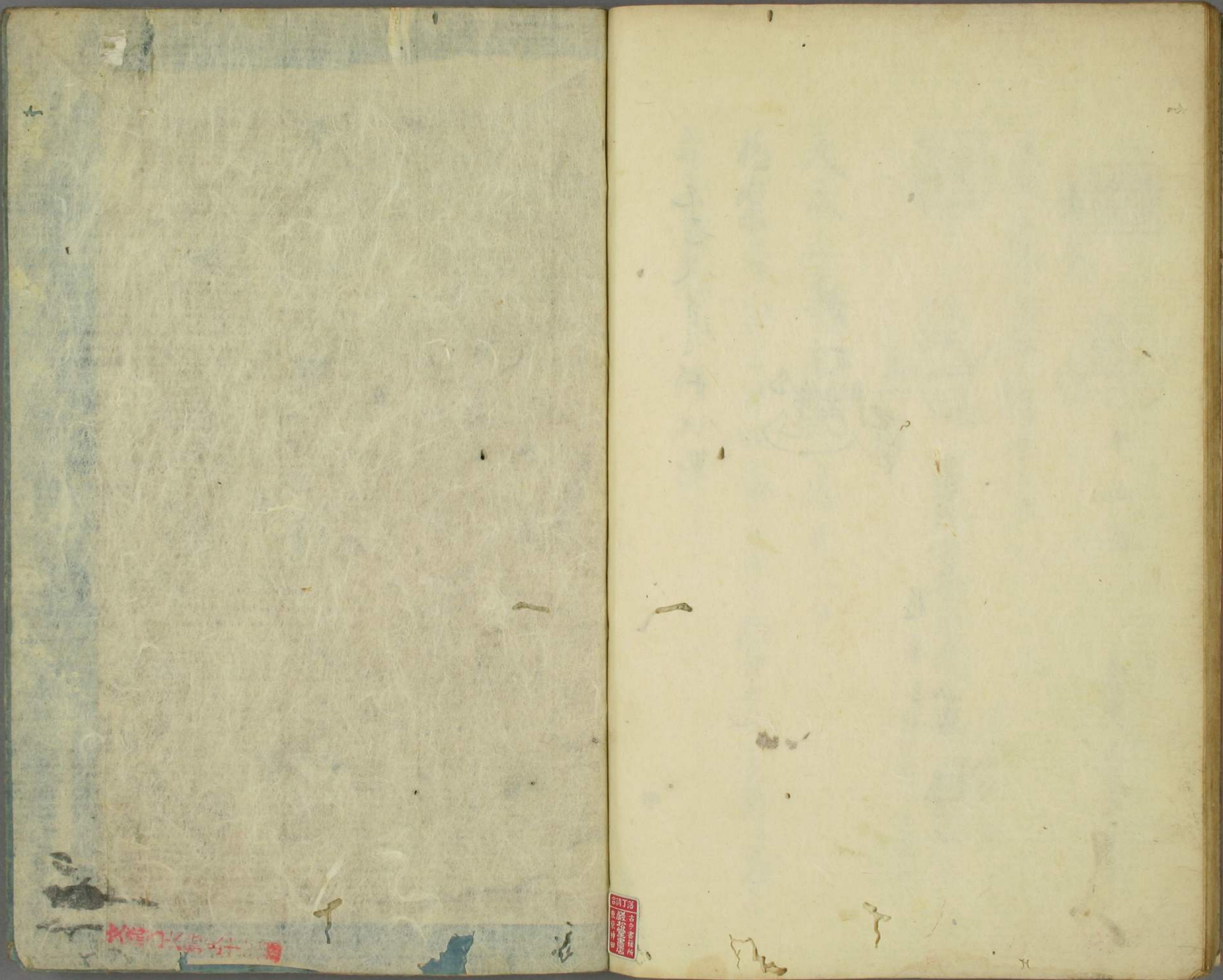
乙巳八月十八日



資批

極樂寺

草紙中



十

上海圖書館藏

上海圖書館藏

